

# ナビゲーター

DV問題が問題視されてから、かなりたちました。しかし、被害の申告数が一向に減っていないません。私のカウンセリングルームにも、DV関連の新規の相談が毎月絶えま

なくあります。

DVの実態はかなり深刻なもので、一番安心して過ごせるはずの家庭で、日常的に暴力的な言動が横行し、家族を圧迫しているのです。

暴力の被害を受けた家族の

## 産業カウンセリング理論と私の実践

◆ 10

ダメージは大きく、体や心に深刻な影響をもたらしています。だからDVの被害者への保護や支援の対策は急務です。そのため被害者の相談に乗ってくれる所や被害者が避難するシェルターが、国や自治体にもできてきました。

一方、DVの加害者が加害行為を止めるための相談機関や治療機関は、大変少ないと

### DV問題解決に向けて

というのが現状です。しかし、加害者をそのままにしておいたのでは、また同じこと(DV)が繰り返されていくのではないのでしょうか。被害者と同じ数の加害者がいるのです。

DVの加害者は、どうしてそういうことをするようになったのか、またどうしたら暴力を克服できるのか、DVの加害者が暴力行為を止めるた

めの対策を何とかしていかないければ、DV問題は解決していかないのではないかと思えます。

この解決に向けての対応方法が、DV加害者更生カウンセリングです。私は自分のカウンセリングルームに来た相談者の中に、DVの被害者だけでなく、加害者もいたた

し、その方法について学び、研究し、実施してきました。そして、確かに暴力性を克服できた人が出てきているのです。

なぜDVの加害者は、愛しているはずの家族に暴力を振るってしまうのか。それを探っていくと、実は加害者も、その育ちの中で暴力的なものを見たり、受けたり、浴びたりして学び、身に付けてきたことがわかります。つまり今の暴力加害者は、かつての暴力被害者でもあったのです。

# 加害者更生カウンセリング普及を願う

暴力的な言動が育ちの中で身につけてきたものだというところをしっかりと認識できると、暴力の衝動に振り回されることが少しずつ減っていくのです。その上で人との柔らかい対応の仕方を学ぶと、さらに暴力性を克服できていくのです。

こうしたDV加害者更生カウンセリングが広がることを切に願っています。

【日本産業カウンセリング協会 会中部支部会員 松林三樹 夫】

(火曜日に掲載)

この構造に気づき、自分の

